

マルキンだより



畜産PR大使「おーいたん」

公益社団法人 大分県畜産協会

TEL:097-545-6594

FAX:097-554-4049

第109号

令和2年2月分交付金概算払単価公表

肉用牛肥育経営安定交付金制度の令和2年2月分の交付金概算払単価が公表されましたので、概算払いを行います。

肉専用種については、148,529.3円・交雑種については、20,121.8円・乳用種については、35,319.2円の交付となります。

詳細につきましては、肉用牛肥育経営安定交付金制度の交付金単価について【令和2年2月分】(独立行政法人農畜産業振興機構発行)」をご覧ください。

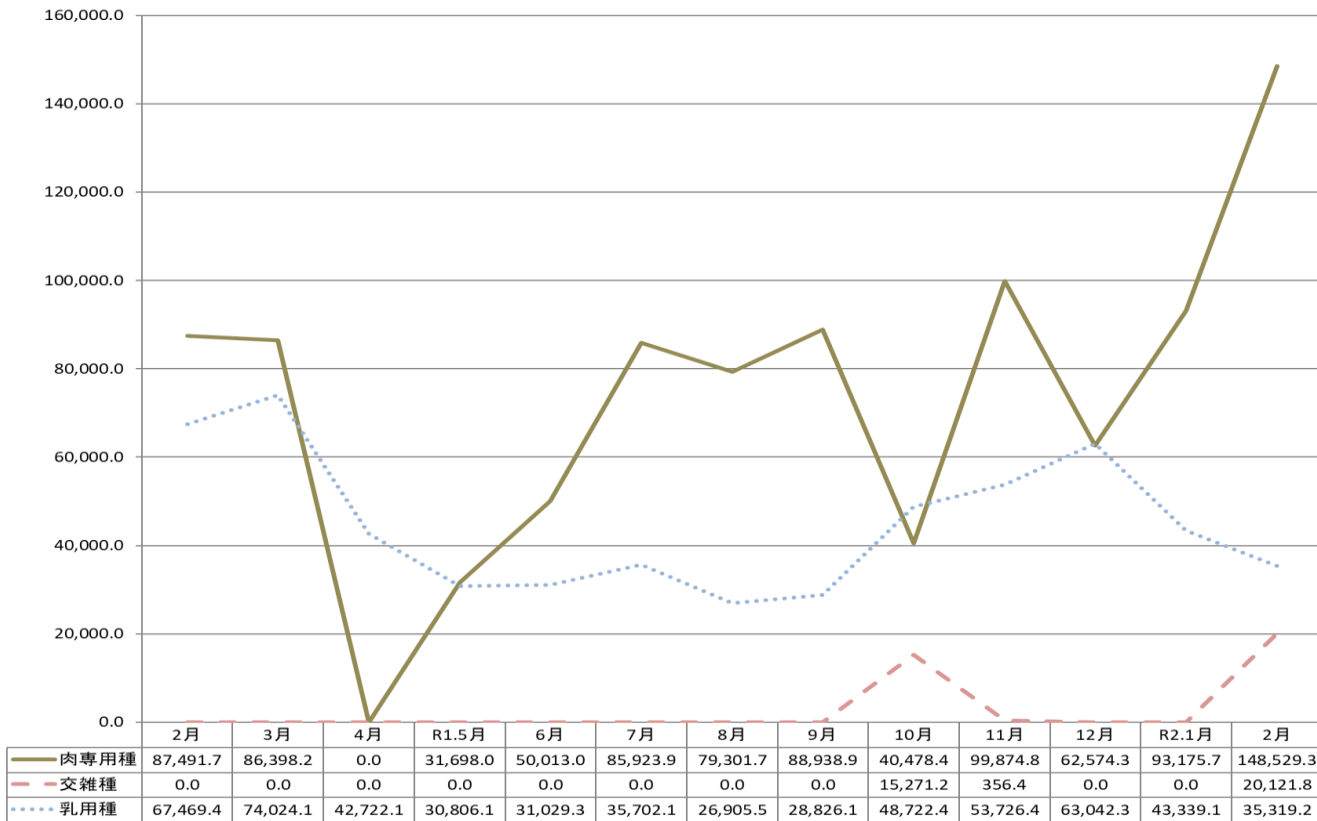
トピックス

●令和2年2月分の単価(概算)が公表されました。

●2月分の交付金交付は、4月27日(月)を予定しております。

交付金発動状況

単位:円



牛マルキン事業に関するホームページ

★公益社団法人 大分県畜産協会 <http://oota.lin.gr.jp/>

当協会のホームページです。マルキン情報の他、市場結果、種雄牛情報等も掲載しております。

★独立行政法人 農畜産業振興機構 https://www.alic.go.jp/operation/livestock/assistance-marukin_00002.html

補填金単価の公表の他、単価算定に関する各種参考資料等が掲載されております。

★畜産物の市況展望【牛肉】

～新型コロナの影響深刻、和牛行き場失う～

2020年3月の牛枝価格は、新型コロナウイルスによる影響が顕著となったことから和牛を中心に下げ進んだ。2月は高値在庫を抱えた問屋がどうか相場を支えようとの思惑が働いたが、新型コロナの収束のめどが立たない中、引き合いは極端に弱まり値崩れを起こした。業界関係者からはGWどころか夏頃まで安値傾向で推移するとの観測まで出ている。

2月の牛枝肉価格は、和牛は去勢A5が前月比101円安の2,615円（前年同月比193円安）、同A4も163円安の2,133円（同370円安）、同A3は146円安の1,907円（同399円安）、同A2は146円安の1,619円安（同453円安）と急落した。交雑牛もB4が68円安の1,662円（同89円安）、B3が121円安の1,502円（同154円安）、同B2は149円安の1,344円（同236円安）と下落したが、肉食需要に支えられ和牛に比べると下げ幅は小さかった。

昨年末から末端需要は鈍化傾向にあり、牛枝価格は安値に振れていたが、新型コロナ問題でインバウンド需要を失った。期待されていたオリンピックも開催が危ぶまれ、先行き不透明感が強い。

輸出市場も非常に厳しい状況にあり、中国解禁の期待で在庫を積み増してきたタイミングで高級部位の受け皿を失った。NYダウの急落を受けて日経平均株価も2万円を割り込み、新型コロナが一過性の感染症問題で収束するかによってリーマンショック並みの経済危機に陥りかねない。海外市場に軸足を移しつつあった和牛は手詰まり感が漂っている。

半面、外出を控えたことにより内食需要は比較的安定している。首相の一斉休校要請は買い占め騒動などの社会的混乱を引き起こしたが、トイレットペーパー類だけでなく肉類についても特需があった。卒業シーズンに合わせて和牛の高級部位を拡販する量販店もあった。

新型コロナで外需が見込めないこと、国内外食不振などから和牛はギリ安傾向に歯止めはかからなそうだ。和牛去A5で1,800円前後、A4で1,600円前後。交雑種は去勢B3で1,300円前後。

（※公益社団法人中央畜産会 発行 畜産コンサルタント誌4月号 抜粋）

★石川県に能登牛あり！

～畜産クラスター事業の活用で年間出荷頭数1,000頭を達成～

【石川県農林水産部畜産振興課・防疫対策課 上田 泰明 氏】

●能登牛の生産振興

石川県では、銘柄牛「能登牛」の増産及び消費拡大に努めている。能登牛とは生産者や食肉事業者など県内の生産から流通、消費に至る関係者により設立された「能登牛銘柄推進協議会」（以下「銘柄協」）に認定された基準を満たした牛肉である。加えて能登牛を地域ブランドとして定着を図るため、平成19年に「地域団体商標」を取得し、県と生産者団体等が丸一となって振興を図った。

※能登牛認定基準

- ①黒毛和種（血統が明確なもの） ②石川県内が最終飼養地であり、かつ飼養期間が最長
- ③格付等級はA3、B3以上

●能登牛増産のあゆみ

平成22年度、県は年間500頭程度の生産であった能登牛を1,000頭に倍増させ、全国の産地に引けを取らないブランド牛として確立することを目的とした「能登牛1,000頭生産体制整備事業」を創設し、これまで肥育牛および繁殖牛の増頭に対する支援を実施している。

※増頭に対する補助単価：肥育牛54,000円/頭、繁殖雌牛100,000円/頭

さらに平成26年度には国が畜産クラスター事業を創設したことに伴い、石川県では平成27年3月に県全域を対象とした「石川県畜産クラスター協議会」（以下「クラスター協議会」）を立ち上げて関係者の連携を強化し、県全体で肉用牛生産基盤の強化、品質や生産効率の向上に努めている。

●クラスター協議会の取り組み

石川県内の肉用牛農家は平成31年2月1日現在80戸あるが高齢化により年々減少しており、特に繁殖農家で深刻な状況（肥育牛の素牛の安定確保ができない）にある。このためクラスター協議会では肥育農家の増頭対策だけでなく、今後見込まれる「繁殖農家の高齢化による飼養頭数の減少」およびこれに伴う「子牛価格の高騰」への対策に重点を置き、以下の取り組みを行っている。

- ①担い手の確保、②繁殖基盤の強化、③肥育基盤の強化（詳しくは別紙参照）

平成27年以降の取り組みの結果、これまでに6経営、8件の畜舎等を整備し、平成30年度に能登牛の年間出荷頭数は1,010頭となり、当初の目標を達成した。

（※公益社団法人中央畜産会 発行 畜産コンサルタント誌4月号 抜粋）

今回はブランド牛を題材にしたクラスター協議会を紹介しました。現在の状況等、別紙に載せておりますので、ご参照ください。なお、新型コロナウイルスの記事もいれておきます。

石川県に能登牛あり！

—畜産クラスター事業の活用で年間出荷頭数1000頭を達成—

石川県農林水産部畜産振興・防疫対策課 上田 泰明

本県の畜産の概要

本県は北陸地方の中心に位置し、東は富山、岐阜の両県に、南は福井県に接し、北は能登半島が日本海に突き出ている。農業産出額は545億円であり、このうち畜産は約17%を占めている。畜種ごとの内訳では、乳牛、豚および鶏が年々減少するなか、肉用牛は近年増加している（図1・表1）。

能登牛の生産振興

本県では、銘柄牛「能登牛」の増産および消費拡大に努めている。能登牛とは生産者や食肉事業者など県内の生産から流通、消費に至る関係者により設立された「能登牛銘柄推進協議会」（以下「銘柄協」）に認定された基準を満たした牛肉である。加えて能登牛を地域ブランドとして定着を図るため、平成19年に「地域団体商標」を取得し、県と生産者団体等が一丸となって振興を図ってきた。

【能登牛認定基準】

- 黒毛和種（血統が明確なもの）
- 石川県内が最終飼養地であり、かつ飼養期間が最長
- 格付等級はA3、B3以上

（図1）農業産出額（農林統計）

年次	米	畜産	野菜	その他	合計
H60	56.3	20.6	12.2	10.7	108,817
H7	58.6	16.5	13.4	11.2	84,530
H17	56.4	17.3	14.5	11.4	60,650
H26	49.7	19.4	15.5	12.0	47,500
H27	50.6	18.2	15.2	12.0	50,000
H28	51.6	17.3	19.7	11.3	54,800
H29	52.2	17.3	18.6	11.7	54,800
H30	52.8	16.5	19.8	10.9	54,500

（表1）畜産物産出額（農林統計）

年次	肉用牛	乳用牛	生乳		豚	鶏	鶏卵	その他畜産物	合計
			生乳	生乳					
H60	1,054	5,474	—	—	5,451	10,431	—	23	22,433
H7	710	3,970	3,550	—	2,680	6,510	6,320	50	13,920
H17	800	3,500	3,000	—	2,000	4,100	4,100	0	10,500
H26	900	2,900	2,500	—	1,500	4,000	3,900	0	9,200
H27	1,000	2,900	2,600	—	1,800	3,400	3,400	0	9,100
H28	1,100	2,900	2,500	—	1,800	3,600	3,600	0	9,500
H29	1,100	2,800	2,400	—	1,900	3,700	3,600	0	9,500
H30	1,200	2,700	2,300	—	1,700	3,400	3,400	0	9,000

能登牛の販売戦略

能登牛の認知度向上および消費拡大などブランド力強化対策は、前述の銘柄協が担っており、これまでは主に県内の消費者に対し、ホームページやパンフレット等による情報提供やイベントの開催等によりPRを行ってきた。このほか、能登牛を提供する飲食店や宿泊施設等を「能登牛認定店」として認定することで消費拡大に努めてきたところである。この結果、県内での認知度は9割を超え、県民に親しまれており、晴れの日のごちそうとしての利用も定着しつつある（写真1・2・3）。

能登牛(のとし)とは、平成23年6月に世界農業遺産に認定された石川の美しい自然や素晴らしい風土の中で丹誠込めて育てられており、きめ細かく肉質と上質な脂によるとろけるような食感が特徴です。



能登牛

美しい自然とやさしい風土が育む味

能登牛銘柄推進協議会事務局 (石川県農林水産部畜産課農・防衛対策課内) 〒920-8580 石川県金沢市敦月1-1 TEL.076-225-1111(代表) <https://www.notoshi.net> 能登牛 検索

能登牛を
食べるなら
能登牛認定店で!

認定店検索はコチラ

認定店検索についてはコチラ

能登牛銘柄推進協議会では、能登牛認定店を募集しております。

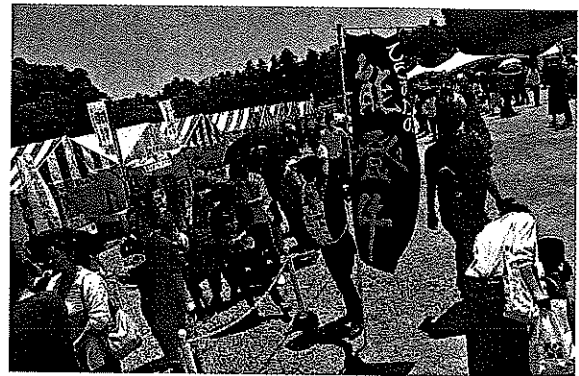


(写真1・2) 能登牛のPR広告の一例

今後、ますますの増産が見込まれる中、銘柄協は、県外への販路拡大も視野に入れた対策として、平成30年度から情報発信力の高い首都圏において飲食店でのメニュー提供やバイヤーが集まるイベント等でのPRを行い、まずは「石川県に能登牛あり!」ということを広く認知してもらい、能登牛を求めて来県してもらうことを目指している。また、生産者の方々にも、主体的にPRに携わってもらうことが重要と考えており、若手生産者を中心として能登牛の品質向上や販売戦略等について検討するため平成30年10月に設立された「能登牛生産者協議会」に期待しているところである。

能登牛増産のあゆみ

平成22年度、県は年間500頭程度の生産であった能登牛を1000頭に倍増させ、全国の産地に引けを取らないブランド牛として確立することを目的とした「能登牛1000頭生産体制整備事業」を創設し、これまで肥育牛および繁殖牛の増頭に対する支援を実施している。



(写真3) 年1回能登牛まつりを開催し、魅力をPR

増頭に対する補助単価：肥育牛54,000円/頭、繁殖雌牛100,000円/頭

さらに平成26年度には国が畜産クラスター事業を創設したことに伴い、本県では平成27年3月に県全域を対象とした「石川県畜産クラスター協議会」(以下「クラスター協議会」)を立ち上げて関係者の連携を強化し、県全体で肉用牛生産基盤の強化、品質や生産効率の向上に努めている。

クラスター協議会の取り組み

石川県内の肉用牛農家は平成31年2月1日

現在80戸あるが、高齢化により年々減少しており、特に繁殖農家で深刻な状況にある。このためクラスター協議会では肥育農家の増頭対策だけでなく、今後見込まれる『繁殖農家の高齢化による飼養頭数の減少』およびこれに伴う『子牛価格の高騰』への対策に重点を置き、以下の取り組みを行っている(図2)。

①担い手の確保

畜産業に新規就農するにあたり、以下のことが課題となる。

- 就農までの手段がわからない
- 経営に必要な技術習得に時間を要し、その間、収入が得られない
- 就農場所の選定、利用交渉を個人で行うことが難しい

このため、就農希望者の募集活動を行い、対象者にはOJT研修等を実施するとともに、営農場所の選定、経営計画の作成支援等、技術研修から営農に至るまでの一貫した支援を行っている。この取り組みにより、現在までに3名、1法人が新たに営農開始または法人への就農により肉用牛生産に携わっている。

②繁殖基盤の強化

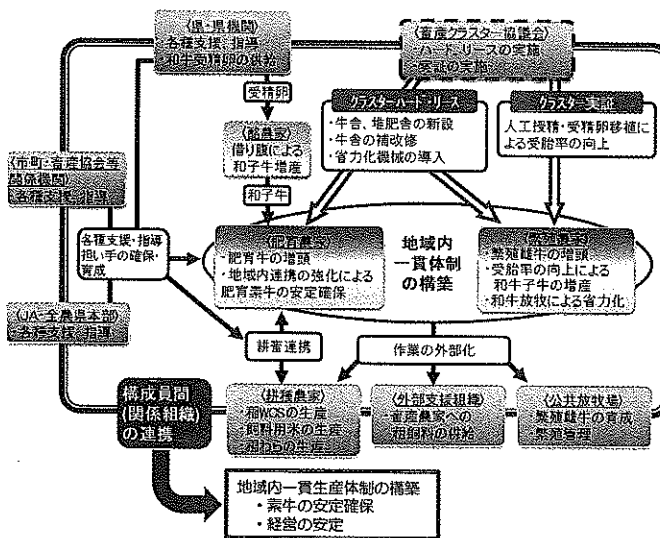
増頭および施設・機械整備に対する支援、公共放牧場の活用による繁殖雌牛候補牛の哺育・育成の外部化による省力化や、これによる牛舎の有効活用による増頭を進めている。また、県が和牛受精卵を生産し、年間900卵程度酪農家に供給している。和牛子牛生産の一翼を担っている。

③肥育基盤の強化

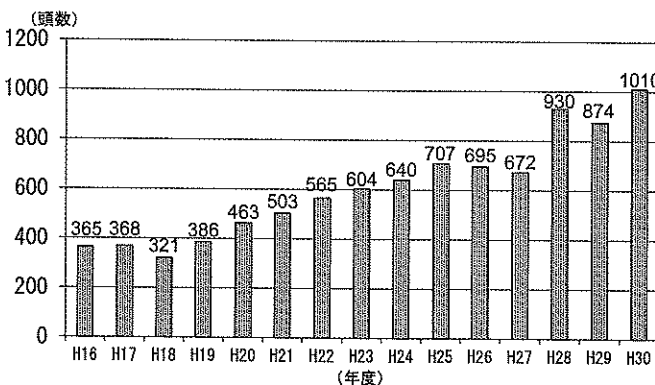
増頭および施設・機械整備に対する支援、一貫経営への移行による子牛の安定確保、企業誘致等に取り組んでいる。

なお、これらの取り組みを進めるとともに

(図2) クラスター協議会の取り組みイメージ



(図3) 能登牛出荷頭数の推移



(写真4) 能登牛年間出荷頭数1000頭達成を祝う記念式典

随時、生産者の経営状況や課題の把握に努め、対策が必要な場合、関係組織が課題検討会を開催し、解決方法について検討の上、現場にフィードバックすることで、計画の着実な遂行に努めている。

平成27年以降の取り組みの結果、これまでに6経営、8件の畜舎等を整備し、平成30年度に能登牛の年間出荷頭数は1010頭となり、当初の目標を達成した(図3・写真4)。

現在、北陸新幹線の金沢までの開業効果等もあり、さらなる需要の拡大が見込まれることから、頭数目標を新たに1500頭とし、引き続き施設整備等に取り組んでいる。今後、平成30年度および令和元年度に整備した牛舎に

子牛を順次導入し、令和3年度には1300頭、令和4年度には1500頭となり、畜産クラスター事業開始時点の2倍以上となる見込みである。

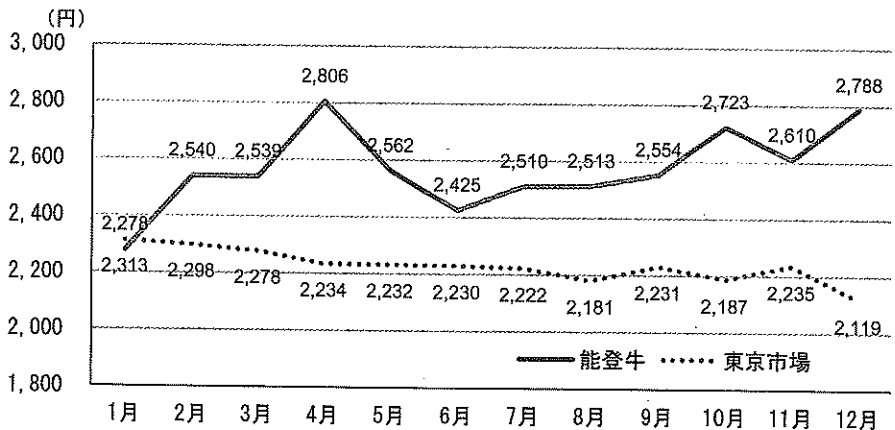
一方で、現在、全国的に子牛の供給頭数が不足しており、子牛価格が高止まりしていることから、今後、これまで通り安定的に子牛を確保できるかは不透明である。このため、能登牛の生産体制を維持・確保していくために、和子牛の生産基盤の強化と、地域や経営内での一貫生産体制への移行による子牛の安定確保や導入費の削減を、これまで以上に推進していく必要がある。それには関係組織一丸となって、県内生産者の経営状況、課題および要望等の把握に努め、課題解決に向けた適切な提案を行い、生産者と二人三脚で生産振興に取り組んでいきたい。

たかが1000頭？ されど1000頭！

先般、ある県の方に本県の出荷頭数が1000頭を達成したことについてお話ししたところ、「うちの県は月1500頭ですよ」とのこと。確かに全国の名だたる畜産県からすると足下にも及ばない頭数であり、追いつけるとも思っていない。

しかし、全国的に頭数が減少する中、能登

(図4) 枝肉取引価格の東京市場との比較 (H31.1~R1.12、去勢・A-4税抜き)



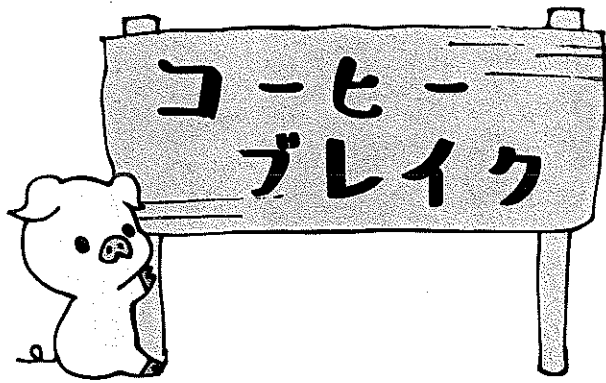
牛は近年着々と頭数を増やしており、しかも高値を維持しているのである。昨年12月、例年であれば枝肉相場は需要期で上昇基調となるどころ、東京市場では年間を通して最安値となったことが報じられたが、このときも能登牛は好調な価格を維持していた。これはブランドとしての価値が定着しており、安定した需要があるからと思われる(図4)。

能登牛が目指すもの

じゃらんが調査している「地元ならではの美味しい食べ物が多かった県」ランキングにおいて、本県はなんと2年連続で第1位を獲得している。では、本県の美味しい食べ物と聞いて何を思い浮かべるだろうか？ノドグロ？ズワイガニ？それともブリ？…海産物のイメージが強い本県ではあるが、ちゃんと美味しいお肉もある。魚もいいけどお肉もね。ということで、ぜひ本県を訪れて能登牛の魅力を知っていただきたい！

「生産者が誇りを持ち、県民に愛され、他県が羨む食材」を目指し、今後も関係者一丸となって能登牛の振興に努めていきます。

(うえだ やすあき・石川県農林水産部 畜産振興・防疫対策課)



さまざまな立場の方の
コラムを連載するページ
「コーヒーブレイク」



「第4回 新型コロナウイルス感染症の予防と対応について」

医師 高瀬 義昌

新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、世界保健機構（WHO）のペドロス事務局長は「パンデミック（世界的流行）とみなせる」と表明しました。中国武漢で原因不明の肺炎患者が増加しているというニュースを耳にしていた昨年12月、その後たった2ヵ月で世界中がこんな状況になるとは想像もしていませんでした。

日本国内でも「新型感染症」に指定され、休校や在宅勤務への切り替え、イベントの中止など私たちの身近なところにも大きな影響が出ています。一刻も早い終息を願わずにはられません。

新型コロナウイルス感染症については、さまざまな情報が氾濫しています。正しい知識を身に付け、冷静に行動することが求められています。今回は改めて新型コロナウイルス感染症の概要とその対応についてお話したいと思います。

人に感染するコロナウイルスは現在7種類が見つかっています。私たちの風邪の原因の15%はこのコロナウイルスの一種によるものといわれています。では、なぜ今回、新型コロナウイルス（SARS-CoV2）は、こんなに

問題となっているのでしょうか。

実は新型コロナウイルスは感染しても80%の方は重症化せず、通常の風邪のような症状で回復し、肺炎などの症状を起こすのは20%程度ということがわかっています。しかし、それがゆえにかかっても気づかずに日常活動を行い、感染が拡大し、その結果患者数が増えているという現状があります。

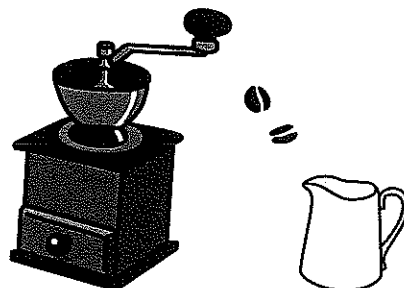
風邪のような症状が現れたら、外出を避ける、咳エチケットを行うなどの感染予防に努めましょう。これはインフルエンザなどと同じですね。新型コロナウイルス感染症が疑われる場合には、厚生労働省が「相談・受診の目安」を発表していますので、それらを参考に、あてはまる場合には保健所に設置される「帰国者・接触者相談センター」に問い合わせることとなっています。

予防法は一般的な感染症の対策と同様です。石けんを使った手洗い、消毒用アルコールによる手指の消毒と、できるだけ混雑した場所を避ける、密閉空間に長い時間他の人と一緒にいないことなどです。マスクはせきやくしゃみなどの症状がある方がウイルスをばらまくことを防ぐ効果はありますが、健康な

方の予防としての効果は高くないといわれています。症状がある方やその近くで看病する方に適切に届くよう配慮しましょう。

免疫力を高めるために、十分な睡眠とバランスの取れた食事をとり、体調管理に努めましょう。高齢者や糖尿病や心不全などの基礎疾患を持つ方は重症化しやすいため、特に注意が必要です。そして禁煙。タバコは免疫力を低下させ、肺炎などの病気にかかりやすく

なります。これを機に私たちの日常生活を改めて見直すことも大切なことですね。



高瀬 義昌 (たかせ よしまさ)

1956年生まれ。信州大学医学部卒業。東京医科大学大学院修了、医学博士。昭和大学客員教授。麻酔科、小児科を経て、以来、包括的医療・日本風の家内医学・家族療法を模索し、2004年東京都大田区に在宅を中心とした「たかせクリニック」を開業する。現在、在宅医療における高齢者医療、認知症のスペシャリストとして厚生労働省の高齢者医薬品適正使用事業や東京都・大田区の地域包括ケア、介護関連事業の委員も数多く務め、在宅医療の発展に日々邁進している。

中央畜産会の刊行図書

農場 HACCP 様式集

A4判152ページ



家畜伝染病の予防と畜産物の安全の確保は、畜産物の生産を行う上で極めて重要な課題です。

中央畜産会では、農場 HACCP に取り組む関係者の養成を図るため、農場での構築指導を担う農場指導員を養成する農場指導員養成研修及び審査員養成研修を実施し、これまでそれぞれ2,435名、716名が受講しています。また、平成30年7月には200を超える農場が農場 HACCP の認証を取得しています。そして、これらの認証取得支援及び認証審査を通じて多くのノウハウが蓄積されてきました。

このノウハウを基に、今後農場 HACCP の認証を目指す畜産農家の円滑な構築活動の一助とするため、農場 HACCP の文書・記録に関する様式集を刊行しました。

農場 HACCP の構築は、文書等の形式を整えることで完結するものではありません。構築した文書を基に、CCP のモニタリング記録をはじめとした畜産物の安全性を高める活動と検証を通じて、最終的には生産性の向上にも繋がるシステムを作り上げることが目標となります。

本書は、これから農場 HACCP の構築を目指す畜産農場等関係者の皆様の参考としてご活用いただける1冊です。

(公社)中央畜産会 経営支援部(情報)

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-16-2 (第2ディーアイシービル)
TEL 03-6206-0846 FAX 03-5289-0890
E-mail book@jlja.jp URL <http://jlja.lin.gr.jp/>

価格
税別4,000円
(送料別)